



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 293 号

(創刊 1988.12.14)

2014.02.02.

要素錯誤訴訟判決とその意義

本件は、原告が被告大林不動産の道路予定地についてのウソの説明を信じて宅地を購入したのは要素の錯誤による土地代金の返還を求めたものであるが、1月14日に横浜地裁の志村裁判長は原告の訴えを棄却した。

道路予定地のウソ問題は、平成10年代に原告を含む住民38名が横浜市と大林不動産など開発業者を訴えて最高裁まで争い、「ウソ問題は無かった」との判決が確定している。

被告は、「本件はこの裁判の蒸し返しとして、訴権の濫用であり却下すべき」と主張した。

これに対して判決は、「本件訴えは前訴訟の確定判決と矛盾する主張を前提としており、その意味で前訴訟を蒸し返すものであることは否定できない。しかし本件は前訴訟と訴訟内容が異なり、錯誤の有無の判断は必ずしも前訴訟と一致しないから訴権の濫用には当たらず、従って却下せず審理し、その結果時効により棄却する」とした。そして本件契約に要素の錯誤があるか否かに拘わらず原告の請求に理由が無い事は明らかであるとして、錯誤についてはあるともないとも言わず、時効理由で棄却したが、これは間接的に錯誤を認めた事である。

というのは、裁判官は原告や被告が主張していないことを判決に書く事は出来ないが、本件では被告が答弁書で、「仮に原告に要素の錯誤が認められるとしても被告は時効を主張する」、としていることから時効を取り上げたものである。

被告も言うように錯誤が認められた時にはじめて時効が問題になるのであり、判決が時効理由により棄却した事は明らかに要素錯誤を認めた事である。もう一つの重要な事は、原告が控訴せずに判決が確定したことである。裁判の判決は夫々独立しており、前訴訟の「ウソ問題は存在しない」とする判決と共に要素

の錯誤、すなわち「ウソ問題を認めた」本件判決が確定したことになる。私達はこの判決を根拠に今後事業者に対して、住民を騙して道路を造る事は国民主権の民主国家ではあってはならないこととして追及していくつもりである。
(法都計部)

南線事業継続決定は不当として 行政訴訟提起

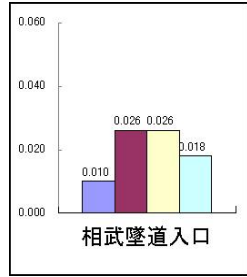
平成24年12月国交省事業評価監視委員会が地質学、地震学の専門家の意見を聴かないまま南線の事業継続は妥当とし、国交大臣がこれを決定したのは法に反するとして平成25年7月22日に国交大臣に行政不服審査請求し、これが却下されたのを受けて1月31日に東京地裁に行政訴訟を提起した。「行政機関が行う政策の評価に関する法律」は条文で「政策の特性に応じて学識経験を有する者の知見の活用を図ること」と定めている。裁判では当局がこれを無視した事の違法性を追及するとともに、地質学専門の住民、本田氏の意見書及び柴崎福島大学地質学教授と、地質学と活断層の専門家、立石新潟大学名誉教授の意見書をもとに南線計画の不備や危険性について厳しく指摘して計画の抜本的見直しを求めていくつもりである。
(法都計部)

対外活動報告

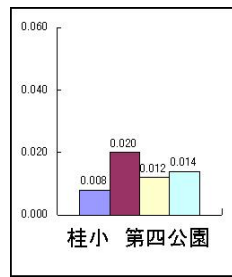
- 01/14 要素錯誤裁判判決 (傍聴者 15名)
- 01/17 公共事業改革市民会議 (1名)
- 01/21 上郷開発都市計画申請に関する事業者説明会傍聴 (多数)
- 01/29 国交省横浜国道事務所他事業者との質問会議(於:朝日平和台、15名参加)
- 01/30 神奈川県公害審査会第14回調停
- 01/31 東京地裁へ審査請求却下取消請求提訴

平成25年12月期のNO₂定点測定結果まとまる

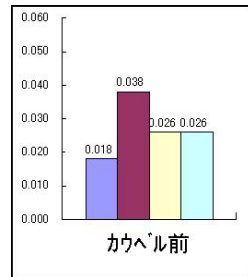
連協環境部では各団体参加のもと、毎年6月と12月の2回第一木、金、土曜日を使って栄区内の定められた場所47箇所に 二酸化窒素の濃度を測定するカプセルを設置して、所謂定期定点観測を続けております。今回は晴れ、微風の中での測定でした。以下に主な測定点の過去4回の測定値とグラフをしめします。



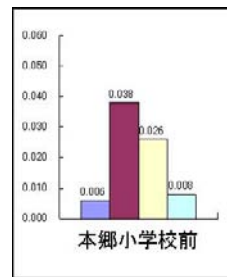
①



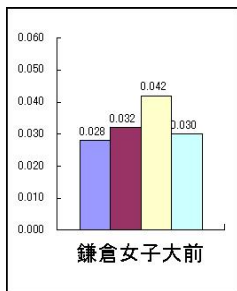
②



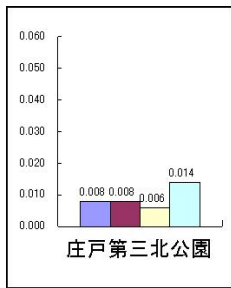
③



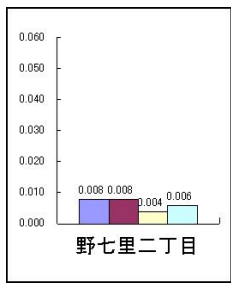
④



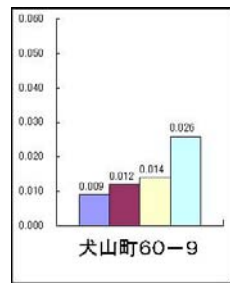
⑤



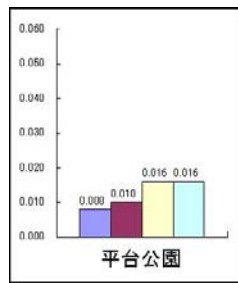
⑥



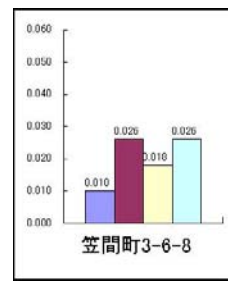
⑦



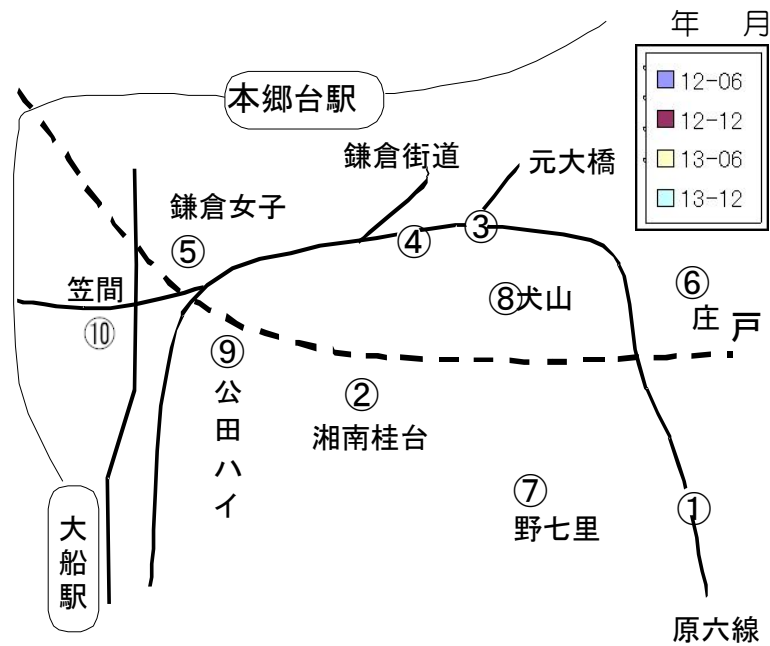
⑧



⑨



⑩



二酸化窒素測定作業

試薬及び試薬付きろ紙は有限会社筑波総研より取り寄せております。
カプセルの準備(木)。カプセルにろ紙をセットし、ひも付きカップ、記録紙と共に各団体に分けます。
測定(木⇒金)。各団体は担当の各ポイントにその番号のカプセルを24時間設置した後回収します。
分析(土)。カプセルに試薬を加えると、ろ紙が吸収した二酸化窒素と反応して赤紫色に着色します。
その濃度をエコアナライザーNoxで測定します。ppmでデジタル表示されます。